

稲城長沼駅周辺地区 まちづくりニュース No.1

平成21年9月発行

～稲城長沼駅周辺のまちづくり～

日頃より、地域の皆様におかれましては、市行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

稲城長沼駅周辺地区においては、現在、東京都のJR南武線連続立体交差事業にあわせて土地区画整理事業により安全で快適なまちづくりを一体的に進めているところです。

稲城市では、稲城長沼駅周辺地区を市の「活力創造拠点」として位置付けており、“みんなであつなぎ、受け継ぐまちづくり”を目標に土地区画整理事業によるまちづくりを進めています。

地区の位置づけ 「稲城市の活力創造拠点」

鉄道の利便性と商業・業務・文化・交流・居住機能が複合した稲城の文化・活力を育む中心地区

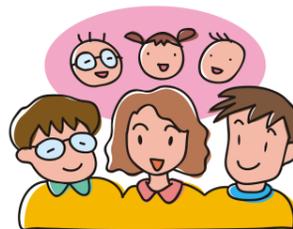
まちづくりの方向性
**みんなであつなぎ、
受け継ぐまちづくり**

まちづくりの課題とイメージ



① にぎわい空間づくり

水・緑・人とのふれあいが
活力を創出するまちづくり



② 個性的で魅力ある 景観の形成

環境とうまくつきあうまちづくり

③ 安全・安心で 誰もが暮らしやすい都市機能

誰もが使いやすく安らぎのある
生活空間のあるまちづくり

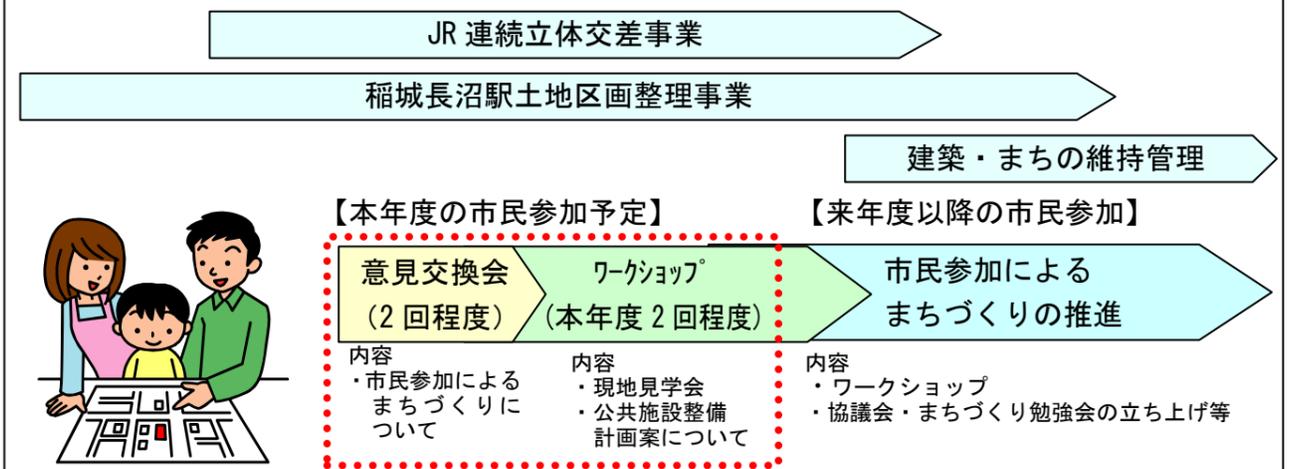
※①～③の詳細内容は、裏面をご覧ください。

～市民参加によるまちづくり～

現在、稲城長沼駅周辺では、土地区画整理事業に基づく公共施設の整備を進めていますが、新たに整備する駅前広場や周辺道路、公園などの整備にあたっては、使い易く、魅力にあふれた場所とするため、具体的にどのような作り方をすればよいか、周辺にお住いの皆様方や利用する方々の意向を取り入れながら整備を進めていきたいと考えております。

そのため、本年度は意見交換の場を設け、皆様方に今後のまちづくりの進め方についてご意見を伺うとともに、市民ワークショップを開催し、駅前広場や周辺道路などの公共空間の整備について検討を進めてまいります。

稲城長沼駅周辺地区の市民参加予定



～第1回まちづくり意見交換会の開催～

市民参加によるまちづくりの第一段階として、下記のとおり、「まちづくり意見交換会」を開催いたします。

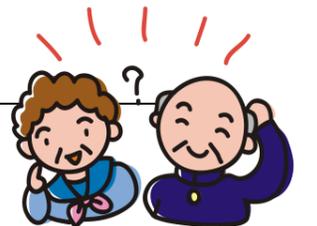
まちづくり意見交換会では、稲城長沼駅周辺地区のまちづくりの経緯、市民参加によるまちづくりの進め方について稲城市より説明し、意見交換を行います。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時：平成21年10月8日(木) 19時00分～21時00分

場所：地域振興プラザ4F会議室

※直接会場にご来場下さい。



お問合せ： 稲城市都市建設部 区画整理課 (担当：井上、持田)

〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111番地

TEL 042-378-2111 (代) / FAX 042-378-9719

■まちづくりの基本方針図

① 稲城市の顔となる
にぎわい商業業務拠点の形成

駅前広場に面した街区の土地利用及び景観誘導

・駅や広場の公共空間とあわせて、民間集客施設のバリアフリー化を検討します。また、にぎわいや安らぎのある街並みを誘導するため、地区計画の活用や街並み形成ガイドライン等を取り決めることが望めます。

既存商店街の街並み景観の魅力アップ



魅力的な商店街景観の形成イメージ

高架下の空間利用

・高架下の空間は、商業施設利用が優先しつつも、車に過度に依存しない低負荷で健康的なまちづくりのため、できるだけ広い駐輪スペースの確保を検討します。



高架下の商業施設イメージ



高架下の自転車駐輪場イメージ

② 個性的で魅力ある景観の形成

環境負荷の低減など、環境に優しいまちづくり

・ヒートアイランド現象を抑制するため、保水性舗装や水を活かすなど、環境にやさしいまちづくりを検討します。

地域の緑景観の継承

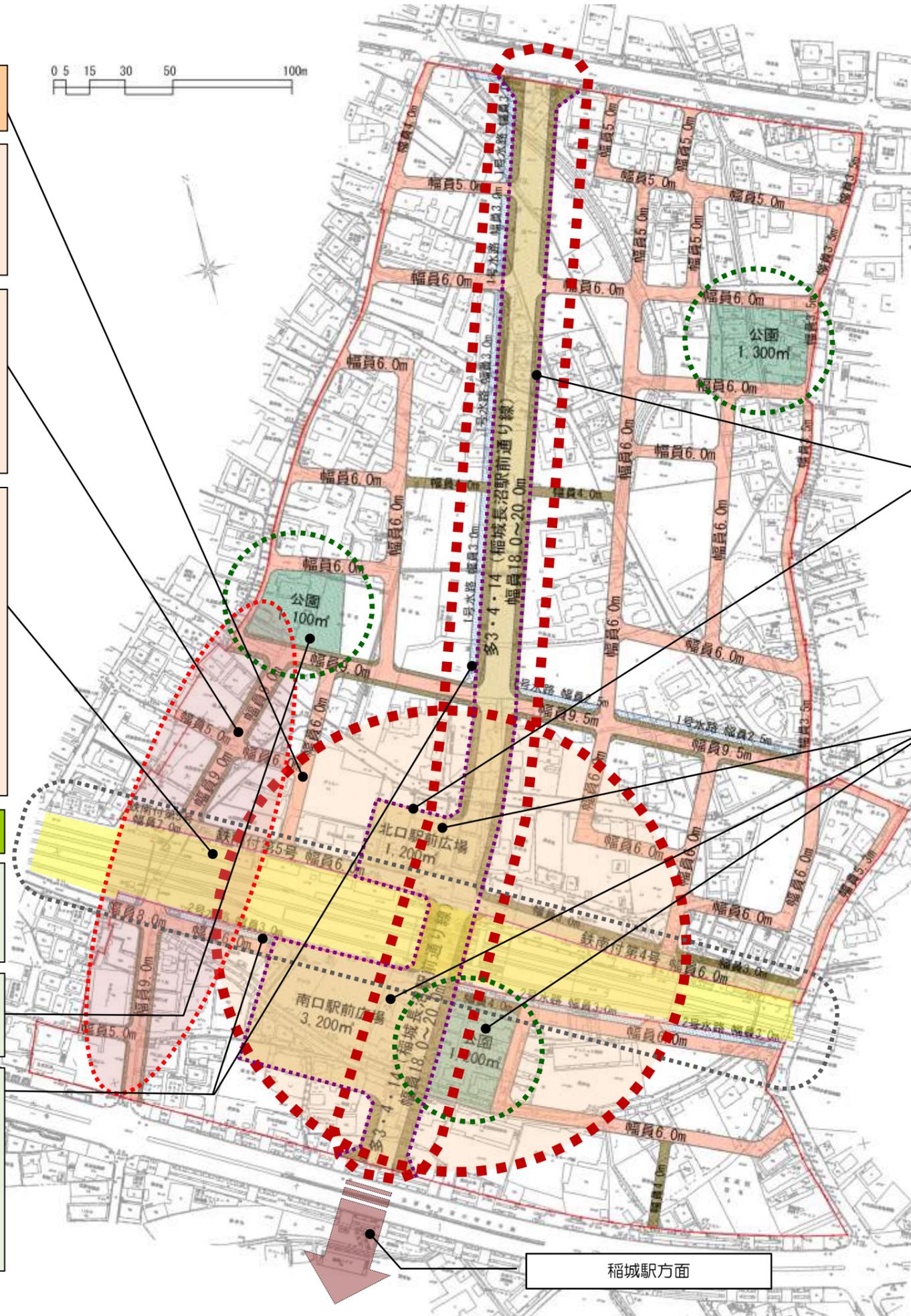
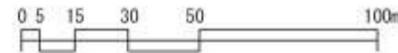
・郷土樹を主体とした植栽など、緑を減らさない工夫や緑陰の復活などが考えられます。

地域特性の「水路」を最大限に活かした地区の顔づくり



・現況の水路機能を残しながら、新しいまちづくりを検討します。

道路沿いの水路のデザインイメージ



③ 安全・安心で、
誰もが暮らしやすい都市機能

自動車に過度に依存しない、
環境にも低負荷な交通環境づくり

・既成市街地エリアは、自転車に好適な平坦地であるため、駅前通り線での自転車歩行者道の設置、駅前の駐輪場の再配置などにより、自転車利用を推進する交通環境を検討します。



歩道と自転車道を舗装で区分した道路イメージ

電線の地中化

・すっきりとしたゆとりのある街並み形成のため、主要な道路の電線地中化を検討します。

安全・安心に暮らせる、防災・防犯への配慮

・災害時の安全性確保のために電線地中化・照明灯のソーラーバッテリー化やLED灯の配置等が考えられます。
・防犯に配慮し、公園や住宅地の見通し確保・夜間の明るさ確保を図ります。

駅前広場の交通処理と歩行空間のバリアフリー化

・タクシー・路線バス・一般車などの利用に対応した、ロータリーの形状や、北口・南口の機能分担などを検討します。
・稲城市の顔、出会いの広場となる駅前広場、公園を検討します。



段差がなく乗降しやすいタクシー乗場イメージ



乗降りしやすい張出し型のバス乗場イメージ



シンボルツリーのある駅前広場イメージ

稲城駅方面

稲城長沼駅周辺地区 まちづくりフレニュース NO.2

平成21年10月発行

日頃より、地域の皆様におかれましては、市行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。稲城市では、稲城長沼駅周辺地区を市の「活力創造拠点」として位置づけており、“みんなでつなぎ、受け継ぐまちづくり”を目標に土地区画整理事業によるまちづくりを進めています。このため、市民参加によるまちづくりの第一段階として、右のとおり、「第1回まちづくり意見交換会」を開催しました。意見交換会には、まちづくりに関する専門的なアドバイザーとして、首都大学東京の秋山先生と川原先生に参加いただきました。

～第2回まちづくり意見交換会にご参加下さい～

「第2回まちづくり意見交換会」は、下記のとおり開催いたします。第2回では、「商工会によるまちづくりの取組みの紹介」や首都大学東京の川原先生より「地域主体のまちの空間づくり」について講演をいただく予定です。

日頃、皆様がまちづくりに対して思っていることなどを発言する機会ですので、第1回まちづくり意見交換会に来られた方は、ご近所お誘いあわせの上ご参加いただきますようお願いいたします。また、前回ご欠席された方もふるってご参加ください。

日時：平成21年11月5日（木） 19時00分～21時00分

場所：稲城消防署3階講堂

内容：・第1回意見交換会で頂いた意見のまとめと今後の対応について

・稲城長沼駅周辺地区のまちづくりの基本方針

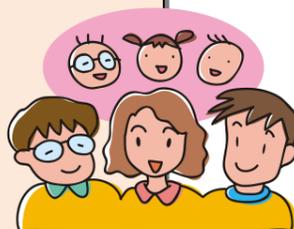
・商工会によるまちづくりへの取組みの紹介

・講演「地域主体のまちの空間づくり」

首都大学東京 都市環境学部 准教授 川原 晋

・フレワークショップ

市民参加による公共施設整備のあり方について意見交換を行います。



お問合せ：稲城市都市建設部 区画整理課（担当：井上、持田）

〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111番地

TEL 042-378-2111（代）／FAX 042-378-9719

～第1回まちづくり意見交換会を開催しました～

第1回まちづくり意見交換会を、去る10月8日に開催しました。

地域の方の参加は26名でした。初めに、稲城市より「稲城長沼駅周辺地区のまちづくりの経緯や概要」について説明しました。次に、首都大学東京の秋山先生より「ユニバーサルデザインによるまちづくり」についての講演をいただきました。

その後、参加者の方々による意見交換を行いました。

日時：平成21年10月8日（木）

19時00分～21時00分

場所：地域振興プラザ4F会議室

参加者：地域の方 26名

アドバイザー：首都大学東京 秋山先生、川原先生



第1回まちづくり意見交換会の内容は、以下のとおりです。

■「ユニバーサルデザインによるまちづくり」について秋山先生より講演

*講演の内容については、次頁に掲載しております。

■意見交換の主な内容

Q：民主党政権となり、国庫補助金の減額等事業に影響はないか。

A：連立事業は、都の事業で優先順位の高い必要な事業として予定どおり進めるものとなっています。

Q：高架下利用について、JRと稲城市との協議は進んでいるのか。

A：高架下は、面積の15%まで市が優先的に借りられます。矢野口駅では、市の分は駐輪場、公園としています。南武線高架の完了時期が具体的に変わった時点で協議予定です。

Q：土地区画整理事業のスケジュールが見えないので、生活の計画が立てられない。

A：現在の進捗度は、事業費ベースで23%である。今後10年間で、南側の川崎街道から北側の旧川崎街道の間の駅周辺部の整備を進める計画づくりをしています。

Q：住民としては、先のことが全然わからないので、まちづくりのことまで頭がまわらない。身のまわりの工事時期について、質問できる場はあるのか。

A：来年度には、今後10年間について、整備する区域・年次を説明する予定です。

Q：まちのデザインや雰囲気づくりの大切さを伺ったが、駅前周辺に盛り込まれるのか。

秋山先生：様々な方々の意見を実現させたいが、空間や事業費には限りがあるため議論を重ね、皆さんで納得できる計画を作り上げていくことが重要です。

Q：移転跡地や造成地が誰の管理地かわからない。雑草や駐輪の問題がある。また、工事中で道路が切り替わったが、案内板等がないので不便である。

A：空地は、事業者や地権者の方が管理しているので問題箇所は対処します。案内板は、工事中も設置する必要があり、対応を考えます。

Q：北口で商売をしているが、北口駅前広場が整備できるのはいつ頃か。

A：南口広場は、高架事業と合わせて暫定的に利用できるようにしたいと考えています。北側については、現在の整備に引き続き進めていく予定です。

～「ユニバーサルデザインのまちづくりについて」の講演内容～

第1回まちづくり意見交換会では、「ユニバーサルデザインのまちづくり」をテーマに、首都大学東京 秋山哲男教授 による講演を行いました。

稲城長沼駅周辺でこれから進めていくまちづくりについて、市民の皆さんがどのように関わっていくべきか、また、使いやすい公共空間を整備するためにはどのようなことに注意すべきかなどについて、様々なまちづくりに関わってこられた専門家としてのご経験からお話をいただきました。

1) ユニバーサルデザインの基本的な考え方

ノーマライゼーションとは、高齢者・障害者を始め、すべての人が地域で安心して暮らせるようにすること

ユニバーサルデザインの7つの原則

分類	原則	具体的内容
平等	①公平な利用	使う人によって不利にならないこと。
デザイン	②使用における柔軟性	フレキシビリティ（自由度）があること。
デザイン	③単純で直感的な使用	使い方が簡単ですぐ分かること。
デザイン	④明瞭な情報	必要な情報がすぐに理解できること。不必要なものを省きシンプルで、直感で分かるデザインであること。
デザイン	⑤間違いに対する寛容	デザインが原因の事故をなくすこと。うっかりミスや危険につながらないデザインであること。
デザイン	⑥少ない身体的な負担	無理な姿勢をとることなく、余計な力を使わずに少ない力でも楽に使用できること。
空間確保	⑦接近や使用のためのサイズとスペース	アクセスしやすいスペースの広さと十分なサイズの大きさを確保すること。

2) ユニバーサルデザインによるまちづくりの事例

歩道の工夫：段差のない歩道
電柱・ガードレール・がい渠ブロックが一直線



多様な人が利用できるベンチ
体の大きさなどに合わせ高さを変えている



アーケード改善の努力：延岡の中心商店街の改善
自然光を採り入れた、門前町の雰囲気醸す明るい雰囲気となった



整備前のアーケード



整備後のアーケード

レッチワース(イギリス)のユニバーサルデザイン
レッチワース-ゲーツヘッドの駅



建築物の階段とスロープ



建物右側にスロープを設置

統一感のある街並み
(神楽坂料亭)
形のあるもので表現するのがコツ



元気な街をつくる：朝市
八戸朝市(午前7:00)



まちづくり交付金で道はピカピカでも人通りはまばら
商店街活性化を怠ってきた事例
まちづくり交付金の投資が虚しい 商店の再生は人材教育：道路ではない



～まちづくりアドバイザーの方々のプロフィール～

秋山 哲男 氏 (あきやま てつお)



首都大学東京大学院都市科学研究科教授、東京生まれ
出身は土木工学で、交通計画や都市計画・都市工学を専門としています。
研究テーマは高齢者・障害者の交通と道路を対象とし、①デザイン研究と②
デマンド型交通研究です。
出版は「バスはよみがえる」編著（日本評論社、2000年）、「住民参加の
まちづくり」編著（学芸出版、2001年）、「都市交通のユニバーサルデザ
イン」編著（学芸出版、2001年）などです。

川原 晋 氏 (かわはらすすむ)



首都大学東京 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース 准教授
出身は建築設計や都市・地域デザインです。中心市街地再生や商店街活性
化のまちづくりの現場に身を置きながら、町並み協定策定・運営支援、道路
意匠設計、店舗共同化市民事業や地産地消市民事業の事業化支援、回遊・も
てなし空間形成研究、祭りと都市空間研究などに取り組んでいます。
主な著書に、『住民主体の都市計画』（編・共著、学芸出版社
2009.03）、『まちづくりデザインゲーム』（共著、学芸出版社
2005.03）、地域と大学の共創まちづくり（分担執筆、学芸出版社
2008.11）などがあります。